

次世代帽体〈PB cLc〉開発ストーリー

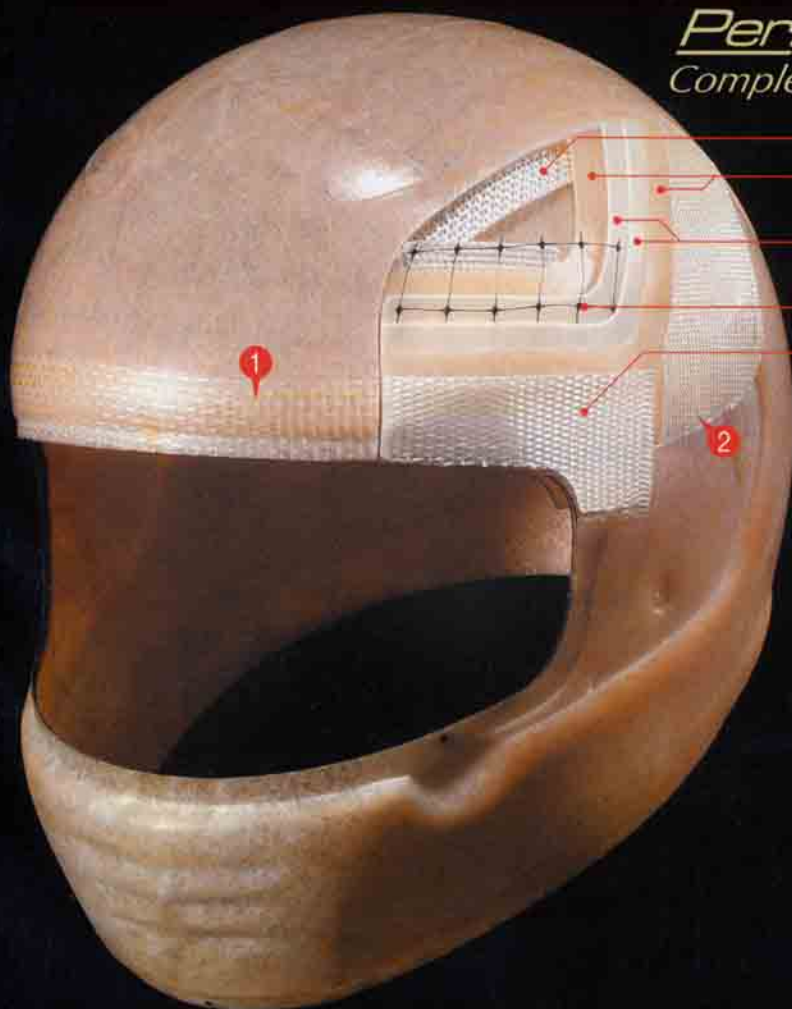
アライ初のカーボンコンポジット製F-1専用ヘルメット「GP-5RC」の開発を進める中、「スーパーファイバーベルトを一周グルリと帽体に配する」という新しい製法にトライしました。それは、クラックが入る程の大きな衝撃



GP-5RC : Image Photo

を帽体が受けた際も、スーパーファイバーベルトによってクラックの成長を食い止め、帽体剛性を高めるという試みでした。そして、F-1用ヘルメットの完成の後、そのノウハウを応用した二輪乗車用ヘルメットの帽体(PB cLc)が誕生しました。

Peripherally Belted Complex Laminate Construction



- 化学繊維 (高レベルの強度と弾性を持つ)
- スーパーファイバー (強度と粘りに優れた特殊ガラス繊維)
- 特殊化学繊維 (軽比重で粘り強い)
- 縦ぎ目の出来ない特殊製法ネット (伸びに強い)
- スーパーファイバーベルト (窓カット上部の横方向の強度を増して、クラックの成長を阻む)

前頭部は、窓カットと並列に配されたスーパーファイバーベルト①によって強化され、サイドからリアにかけては従来のcLc構造に加え、スーパーファイバークロス②で補強を行い、帽体の剛性を更に高めています。この新開発〈PB cLc〉により、緩衝ライナーの発泡倍率を、従来比で10%程度下げることが可能となり、「帽体は強固に、頭を包むライナーは柔らかく！」というヘルメットの理想に、また一歩近づきました。



RAPIDE-SR